「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

日時：令和８年１０月５日（月）１８時３０分～１９時３０分
場所：市役所５階中会議室

① ボランティア団体等とのネットワーク作り

② 按針祭・市制施行 80 周年記念としての提案

③ 三浦按針の生誕祭について

④ 不法ヨット・漁船について

⑤ ユニバーサルビーチについて

⑥ 伊東市の大規模事業の情報発信と市民への説明について

⑦ 子ども食堂について

⑧ 按針祭花火大会の PR について

⑨ 伊東駅開業 90 周年イベントについて

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見

ボランティア団体等とのネットワーク作り

私たちの団体では、地域の環境美化活動に取り組むとともに、自分たちの持つネットワークの範囲内で、他のボランティア団体や各地区の町内会などの活動で人手が不足している場合に助っ人として、活動に参加しています。

こうした活動を通じて感じているのは、地域には環境美化のほか様々な活動に取り組む団体がある一方で、それぞれの活動内容や活動日程の情報が団体間で共有されていないということです。

私たち団体は、人手が不足して困っている団体の活動に積極的に参加したいと考えていますが、伊東市にどのような活動を行っている団体があって、いつ活動しているのか、どういった支援を必要としているか知る方法がありません。

そこで、市役所を中心として、地域のボランティア活動に取り組む団体や町内会・自治会などが、活動日程、活動場所、必要な人数、機材など支援を必要とする内容を団体がインターネット上に掲載し、参加したい人がその活動に自由に申し込みができるようなボランティアのマンチングサイトのような仕組みを構築していただきたいと考えています。

こうした仕組みがあれば、団体同士の連携が広がり、限られた人員や機材を有効に活用できるだけでなく、これまでつながりのなかった団体同士が協力するきっかけにもなるとともに地域全体でボランティア活動を支え合う体制づくりにもつながると考えています。

回　　答

ご提案いただいたボランティア活動のマッチングサイトについては、他自治体においても、活動情報を掲載したい団体が事前に登録し、募集の都度、活動内容や日時、必要な人員などを掲載するとともに、参加希望者がサイトを通じて申し込み、その後、団体と参加希望者が直接連絡を取れる仕組みを導入している事例があります。

本市においても、こうした他自治体の取組を参考にしながら、民間事業者が提供するサービスの活用も視野に入れ、導入に係る事業費や運営方法、掲載団体の登録要件、利用ルールなどについて調査・研究していきたいと考えております。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見
按針祭・市制施行 80 周年記念としての提案 8 月 10 日は按針祭であり、市制施行記念日でもあります。しかし、伊東市民の中でも、市制施行記念日であることを知らない方がいらっしゃいます。伊東市の歴史をしっかりと知っていただきたいことと、来年は市制施行 80 周年でもありますので、三浦按針が日本初の洋式帆船を建造した功績を讃える按針祭において、実際の帆船を誘致していただき、盛大にお祝いしてみてはいかがでしょうか。
回　　答
来年の市制施行 80 周年という節目に、三浦按針の功績や伊東の歴史を広く市民の皆様に知っていただく機会として、実際の帆船を誘致してみてはどうかとのご提案につきましては、大変貴重なご意見として受け止めております。 いただいたご意見は、今後の按針祭や市制施行 80 周年記念事業を企画するに当たり、参考とさせていただきます。 今後とも、本市の歴史や文化への理解と郷土愛を深める事業の実施に努めてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見
三浦按針の生誕祭について 三浦按針の生誕祭について、現在は、按針会が中心となり企画・運営から、英国大使館への声掛けなど、様々な努力により成り立っていると認識しています。こうした民間の皆さんの熱意やご尽力は、大変ありがたいことだと思います。 しかし、三浦按針の功績を称える生誕祭であるならば、民間団体の努力に頼るだけではなく、市がもっと主体的に関わり、責任を持って企画・運営を支え、積極的に盛り上げていくべきではないかと考えます。
回　　答
三浦按針の生誕祭につきましては、これまで按針会の皆様が中心となり、企画の立案や英国大使館への働きかけなど、様々なご尽力により開催されてきたものです。 一方で、市が主体となって実施すべき事業なのか、民間団体が主体となり、それを市が支援する形が適切なのかについては、事業の目的や性質、これまでの経緯などを踏まえ、慎重に検討する必要があると考えております。 市が主体的に企画・運営すべき事業もあれば、民間団体の自主性や創意工夫を生かし、市が補助や協力を行う形が適している事業もあると考えます。 また、こうした考え方は生誕祭に限らず、市が実施・支援している様々な事業についても共通するものであり、全庁的な視点から、それぞれの事業の必要性や実施主体、市の関与のあり方を改めて検討していくことが重要であると考えております。 今後は、各事業の担当課がそれぞれの事業の目的や効果、実施体制などを踏まえ、事業の必要性や市としての適切な関わり方について、責任を持って検討して

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

まいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見
不法ヨット・漁船について 現在、伊東市に海洋少年団を設立する計画を進めており、活動に使用するカッターを譲り受ける予定となっています。 海洋少年団の活動は、子どもたちが海に親しみながら、海の知識や技術を学ぶとともに、協調性や責任感、規律を身につける貴重な機会になると考えています。 しかし、活動に必要なカッターの係留場所について、伊東港を管轄する熱海土木事務所に相談したところ、現在、不法に放置されているヨットや漁船などがあり、新たに船を係留するための許可を得ることが難しいとの説明を受けました。 つきましては、市としても熱海土木事務所をはじめとする関係機関に働きかけていただき、カッターを安全に係留できる場所の確保に向けて、ご協力をお願いしたいと思います。
回　　答
伊東港へのカッターの係留の要望につきましては、港湾管理者である熱海土木事務所へお伝えいたします。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見
ユニバーサルビーチについて 今年度は、静岡県や民間団体が中心となってユニバーサルビーチの取り組みが行われていたと認識しています。 こうした取り組みは、障がいのある方や高齢の方、小さなお子さん連れのご家族など、これまで海に親しむ機会が限られていた方々にとって、海を楽しむきっかけとなる大切な活動だと思います。 そこで、来年度以降は、伊東市が主体となって関係団体とも連携しながら、開催回数を増やすなど、継続的に取り組んではどうでしょうか。 障がいのある方だけでなく、年齢や身体の状況にかかわらず、より多くの市民や観光客が参加できるよう、広く周知し、誰もが気軽に海を楽しめる機会を増やしていただきたいと考えています。
回　　答
ユニバーサルビーチの取り組みは、障がいのある方や高齢の方、小さなお子様連れのご家族など、誰もが安心して海に親しみ、楽しむ機会を広げる大変意義のある活動であると考えております。 このため、来年度以降の継続的な取り組みに向けて、今年度の事業を主催した民間団体と、実施に当たっての課題や開催方法、関係団体との連携などについて、前向きに検討・調整を進めております。 今後につきましても、誰もが気軽に海に親しめる機会の充実を目指し、関係団体と連携しながら、より多くの方に参加していただける取り組みとなるよう努めてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見

伊東市の大規模事業の情報発信と市民への説明について

現在、伊東市では、伊東港・伊東海岸整備事業、伊東駅前整備事業、新図書館建設事業、新文化ホール建設事業、亀石峠トンネル整備事業など、今後の伊東市の将来を左右する重要な事業について検討されていると認識しています。

これらの事業は、伊東市の将来のまちづくりや地域の活性化に大きく関わるものであり、市民はもちろん、市外・県外の方々にも広く知っていただくことが重要だと考えます。

そこで、まず、これらの大規模事業について、市として統一的な名称やキャッチフレーズを設定し、積極的に情報発信してはいかがでしょうか。

事業ごとに個別に広報するだけでなく、伊東市の将来を見据えた一連のプロジェクトとして発信することで、市民の関心や理解を深めるとともに、市外・県外の方々にも伊東市の将来像やまちづくりへの取り組みを知っていただくきっかけになると考えます。

一方で、これらの大規模事業には、大きな期待やメリットがある反面、多額の事業費や完成後の維持管理費など、市民が理解しておくべき課題や負担もあると思います。

そのため、事業の魅力や期待される効果だけを発信するのではなく、事業費や将来の維持管理費、財源、今後の市民負担への影響といった課題についても、分かりやすく市民に説明していただきたいと思います。

その上で、費用や課題を踏まえても、なぜこの事業が必要なのか、どのような効果が期待できるのかを明確に示していただくことが大切だと考えます。

ぜひ、統一的なプロジェクト名称の設定と効果的な情報発信、そしてメリット・デメリットの両面を踏まえた分かりやすい情報公開について、ご検討いただきたいと思います。

回　　答

ご指摘の大規模事業は、今後の伊東市のまちづくりや地域の活性化に関わる重要な事業であることから、市民の皆様に事業の目的や内容、期待される効果などを十分にご理解いただくことが重要であると認識しております。

今後は、各事業の進捗状況に応じて、事業費や財源、将来の維持管理費、市民負担への影響といった課題も含め、メリット・デメリットの両面から、分かりやすく情報を公開していくことが大切であると考えております。

また、統一的なプロジェクト名称の設定や効果的な情報発信についても、いた

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

だいたご意見を参考にしながら検討し、市民の皆様への理解を深めるとともに、市内外に伊東市の将来像やまちづくりへの取り組みを広く発信できるよう努めてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見

子ども食堂について

私は、伊東市で子ども食堂「ふらっとハウスポレポレ」で活動を行っています。

子ども食堂での活動を今後も継続していくために、次の 3 点についてご検討をお願いいたします。

1. 子ども食堂への補助金の増額について

現在、「ふらっとハウスポレポレ」では、月に 60～70 食程度の食事を提供しています。しかし、現在の補助金額では、1 食当たりに換算すると約 100 円となります。食材の価格が上昇する中、活動を継続していくためには、現状の補助額では十分とはいえません。子ども食堂が地域の子どもたちを支える重要な役割を果たしていることをご理解いただき、実情に見合った補助金の増額をご検討いただきたいと思います。

2. 子どもの居場所づくりにおける保険料の補助について

子ども食堂では、食事の提供だけでなく、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりにも取り組んでいます。その活動を安全に継続するためには、万が一の事故などに備える保険への加入が重要です。現在、私たちは社会福祉協議会のボランティア保険に加入していますが、活動を継続する上では、保険料も運営上の負担となっています。

大阪市では、社会福祉協議会と連携し、子どもの居場所づくりに関する保険料の経費を補助する取り組みが行われていると伺っています。伊東市においても、子ども食堂などの居場所づくりに取り組む団体が安心して活動を続けられるよう、社会福祉協議会との連携も含め、保険料に対する補助制度の構築をご検討いただきたいと思います。

3. 健康福祉センターの使用料の減免について

ボランティア活動では、活動場所の確保も重要な課題です。健康福祉センターを団体で利用する際の使用料について、地域福祉や子どもたちの支援を目的として活動するボランティア団体に対しては、使用料の免除や減額などの配慮を検討していただきたいと思います。地域の福祉活動を支える公共施設という観点から、ボランティア団体が利用しやすい仕組みづくりをご検討いただければと思います。

回　　答

子ども食堂「ふらっとハウスポレポレ」の活動を通じて、地域の子どもたちのために日々ご尽力いただいていることに、心より感謝申し上げます。

1. 子ども食堂への補助金の増額について

物価高騰により食材費などの運営経費が増加していることは、子ども食堂の活動を継続していく上で大きな課題であると認識しております。従って、令和６年

度及び７年度に経費の増額を実施いたしました。子ども食堂が地域の子どもたちを支える重要な役割を担っていることを踏まえ、現在の補助制度や活動の実情を確認しながら、物価高騰の影響に対応した、実情に見合う補助額について検討してまいります。

2. 子どもの居場所づくりにおける保険料の補助について

子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保するためには、安全面への配慮が欠かせないものと考えております。そのため、保険料相当額を含めた経費をお支払いしております。

今回、ご紹介いただいた大阪市の取組も含め、他自治体の制度や社会福祉協議会との連携のあり方などについて、まずは調査・研究を進めてまいります。その上で、伊東市として今後どのような支援が可能なのかを検討し、実施できることから取り組んでまいりたいと考えております。

3. 健康福祉センターの使用料の減免について

地域福祉の向上や子どもたちの支援のために、こうした活動を継続していただくためには、活動場所の確保や運営にかかる負担への配慮も重要であると認識しております。健康福祉センターの使用料につきましても、施設の利用状況などを踏まえながら、地域のために活動するボランティア団体をどのような形で支援できるのか、使用料の減免も含めて検討してまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見
按針祭花火大会の PR について 今年の按針祭は、第 80 回という節目を迎え、2 万発の花火が打ち上げられるなど、盛大に開催され、大変喜ばしく思います。 一方で、伊東市の魅力を市外に広く発信し、観光客の誘致につなげるという点では、県外、特に首都圏に向けた PR が、十分でなかったと感じています。 今後は開催直前の情報発信だけでなく、早い時期から計画的に PR を行い、全国版の新聞や首都圏を走る JR の車内広告など、県外の方の目に触れる機会を増やしていただきたいと思います。
回　　答
この度の第 80 回按針祭海の花火大会につきましては、節目となる記念すべき開催となりましたが、一方で、花火の打ち上げに関する事故や、会場周辺の混雑、駐車場の不足、通信環境の問題など、運営面でいくつかの課題も残りました。 いただきましたご意見の県外、特に首都圏に向けた情報発信の強化につきましては、伊東市の魅力を広く発信し、観光誘客につなげるための重要な視点であると考えております。 今後は、市民アンケートの結果なども参考にしながら、今回の開催で明らかになった課題を整理するとともに、来年度の按針祭に向けて、PR の方法や開始時期、効果的な情報発信のあり方について検討してまいります。併せて、混雑対策や駐車場の確保など、運営面の課題についても改善策を検討し、より多くの方に安心して楽しんでいただける花火大会となるよう努めてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（猫の手孫の手）

意　　見
伊東駅開業 90 周年イベント 伊東駅は、再来年に駅舎開業 90 周年という大きな節目を迎えます。この記念すべき機会を、市民の皆さんとともに祝い、伊東市の魅力を市内外に広く発信するため、伊東駅前を中心とした記念イベントの開催をぜひ企画していただきたいと思います。 例えば、コンサートやステージイベント、地元飲食店による出店、特産品の販売など、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめる、にぎわいのある催しを開催してはいかがでしょうか。
回　　答
伊東駅の駅舎は、再来年に開業 90 周年という大きな節目を迎えます。この記念すべき機会を、市民の皆様とともに祝い、伊東市の魅力を市内外に広く発信することは、大変意義のあることと考えております。 今後は、JR とも連携を図りながら、伊東駅前を中心とした記念イベントの開催について、実施の可能性や内容を検討してまいります。